

中学部肢体学級 職業・家庭科

「汚れた服をきれいにしよう」

1. 本単元を通して身につけさせたい力

- ・『基本的生活力』の項目にある清潔・身だしなみの力を身につけることをねらいとしている。

【知識・技能】

汚れた服をきれいにする方法の基本的な知識や技能を身につける。

【思考力・判断力・表現力】

洗濯することや衣服を畳むことに気づき、自分なりの手段で伝えたり、教師と一緒に行動したりすることができる。

2. 児童・生徒の実態

- ・衣服の汚れを感じても、汚れたことを伝えることが難しい。
- ・衣服がきれいになるまでの一連の流れを経験したことがない。

3. 本時の目標

- ・汚れた服をきれいにする方法を知り、教師と一緒に洗濯機を使うことができる。(知・技)
- ・洗濯が必要なことに気づき、自分なりの手段で伝えることができる。(思)

4. 活動・教材等の工夫

○ケチャップをこぼす場面を設定

- ・汚れに一目で気付くことができる。
- ・日常生活にある食事場面を設定することで、生活と結びつけて考えやすい。

○「不快」の気持ちを表す工夫

- ・はじめに教師が服を汚し、不快感を表情イラストを使いながら伝える。
- ・その後、服を汚した子どもたちがどのように感じたか、表情カードを選択させる。

○実際に洗濯機を操作

- ・衣服を洗う経験につなげる。

○手もみ洗いで「きれい」を実感

- ・手もみ洗いをすることで、目の前で汚れが落ちる様子を確認できる。

5. 学習の様子



6. 成果と課題

【成果】

- ・服が汚れるという、身近な日常場面の設定がわかりやすく、導入部分からスムーズに授業に入ることができた。
- ・汚れた部分を iPad で撮影しておいたことで、汚れた服ときれいになった服を見比べることができた。

【課題】

- ・活動の中に「汚れた＝不快」はあったが、「きれい＝快」を体感できる場面が無かった。
→きれいになった服を着ることができる工夫。
- ・汚れには気付けたが、「きれいになった」に気付けたのか分からない。
→汚れた部分に印を付けておくことで、汚れが無くなったことに気付くことができる。

中学部 知的学級 1 年 職業家庭科

「木工作業をしよう」

1. 本単元を通して身につけさせたい力

・自分の苦手な部分に向き合い、自分なりの工夫をし、活動に見通しを持って「自分で作ってみよう・やってみよう」という活動を通して、「チャレンジする力」の項目のやりたいことを主体的に選択して取り組む力を身につけることをねらいとしている。

【知識・技能】

・道具を正しく安全に使用することができる。

【思考力・判断力・表現力】

・完成図をイメージしながら作業工程に沿って制作することができる。

【学びに向かう態度】

・自分なりに工夫して意欲的に制作することができる。

2. 児童・生徒の実態

- ・日常生活において自分で考えて物事を進めたり、創意工夫して作ったりすることに苦手意識を持っている生徒が多い。
- ・いろいろな場面で、自主性・積極性に弱さが見られる。

3. 本時の目標

(知・技)電動ドリルを安全に使用することができる
(思)ワークシートや形見本を手がかりにデザインを考え、形を工夫することができる
(態)ワークシートや下描きの活動に積極的に取り組むことができる

5. 学習の様子



4. 活動・教材等の工夫

○活動への見通し

・本立てのデザイン（側面）を考える際、ワークシートを活用し、自分の活動内容を明確にする。

○デザインの手掛かり

・複数の見本を用意しておくことで全員が選んだり自分で考えたりして、デザインすることができるよう工夫する。

○デザイン通りの作品に近づける工夫

・デザインした紙を板の上に貼り付けたまま電動ドリルで穴をあけることで、デザインしたものがそのまま作品となるよう工夫する。

6. 成果と課題

【成果】

- ・活動内容が分かりやすく提示されていたことが子どもの「わかる」につながった。
- ・ワークシートや見本など、教材教具が工夫されていたため、イメージを持ち主体的に活動できた。
- ・思い通りの作品ができたことで、普段発表が苦手な生徒も自信を持って作品を見せ、発表することができた。

【課題】

- ・できあがるまでの工程を視覚化することでさらにイメージが持ちやすい。
- ・ワークシートは生徒にに応じてもう少しバリエーションがあっても良い。

中学部 知的学級2年 職業家庭科

「織物 ～鍋敷き作り～」

1. 本単元を通して身につけさせたい力

・「チャレンジする力」の項目にある主体的に選択し、状況に応じた対応を身につけることをねらいとしている。

【知識・技能】

手順を理解し、鍋敷きを織ることができる。

【思考力・判断力・表現力】

手順表や注意ポイントを見て、作製の方法や工夫を自ら考えることができる。

【学びに向かう態度】

一定時間集中して作業に取り組むことができ、分からないところは自分から質問することができる。

2. 児童・生徒の実態

- ・学年全員で学習を行っているため、生徒の実態に幅がある。
- ・木工、窯業、農業、ミシンを使用した製作などを行ったことがある。
- ・活動の内容を理解すると、一定時間集中して自ら取り組むことができる。

3. 本時の目標

- ・縦糸を織機にかける手順を理解して、糸かけができる。(知・技)
- ・縦糸・横糸をかける際のポイントを意識して、自分で考えながら糸かけができる。(思)
- ・作り方の手順説明を聞いて、一定時間集中して作ることができる。(態)

5. 学習の様子



4. 活動・教材等の工夫

○縦糸のかけ方の確認

- ・手順を写真で提示し、生徒全員が手順を理解することができるようにする。
- ・重要なポイントのみ伝えることで、次の「縦糸をかけていく活動」で生徒自身が考えながら活動を進められるようにする。

○縦糸をかけていく活動

- ・横糸を編む際の力加減が均一にならない場合でも、横糸を直線に編み進めることができるよう、縦糸が円状となる編み機を使用。
- ・繰り返し手順を写真で提示した後、手順表をなくす。
- ・糸のかける場所がわかりにくい生徒は、段ボール織機に色シールを貼り、糸かけの場所を視覚化する。

6. 成果と課題

【成果】

- ・全て説明するのではなく、自分で考えて実践する時間を設けていた。
- ・一人で見通しを持って行うことのできる教材設定だった。

【課題】

- ・友だちに教え合う時間を持つなど対話的な時間をもう少し設けたらよかった。

【高等部に向けて】

○グループで一つのことに取り組む

質問する力や、相手の気持ちを考えて協力することが大切である。また必要なときに助けを求めることができることも重要である。

中学部 知的障害 3 年 職業・家庭科

「修学旅行に向けたおしゃれをしよう」

1. 本単元を通して身につけさせたい力

・「基本的生活力」の項目にある基本的な生活習慣（身だしなみ）を身につけることをねらいとしている。

【知識・技能】

・時、場所、場合を考えた、日常着の使い分けができる。

【思考力・判断力・表現力】

・目的に応じた衣服の着用や個性を生かす着用について考え、工夫できる。

【学びに向かう態度】

・衣服と社会生活との関わりに関心を持ち、時、場所、場合に応じた衣服を着用する態度を身につける。

2. 児童・生徒の実態

- ・授業に真面目に取り組む生徒が多いが、一度だけの学習では定着しない。
- ・言葉だけでは理解が難しい生徒もあり、視覚教材など個々に対応する必要がある。
- ・自分から意見を言うことが難しい生徒もいる。
- ・保護者が選び買ってきた服を着ているなど、お洒落に興味のある生徒が少ない。

3. 本時の目標

- ・時、場所、場合を考えた日常着を選ぶことができる。(知・技)
- ・目的に応じた着用について考えたり、選んだりすることができる。(思)
- ・お洒落に興味を持って取り組むことができる。(態)

4. 活動・教材等の工夫

○自由な組み合わせと例の提示

・服装の参考とするために、さまざまな服の写真を用意しておくことで、修学旅行に合った服装を考えられるよう工夫する。
また、前時には教師が用意した服を、自由にコーディネートする授業も行っている。

○グループワークの取り組み

・意見を言うことが難しい生徒が、人前でも意見を言えるよう、1学期からいろいろな場面においてグループで話し合う学習を積極的に取り入れている。

5. 学習の様子



6. 成果と課題

【成果】

・グループワークでは生徒だけでの話し合いができていた。また、生徒同士が見て分かるようにできていた。

【課題】

・生徒によってお洒落の考え方は違うため、さまざまな系統の服を提示しても良かった。
また、普段からお洒落について意識させていくことが大事である。
・グループでの活動が多かったが、個人での取り組みがあっても良かった。